


ヴェイローラ・リリーエ

観察記録

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止





騎士ヴィーラ・リーリエがアルピオンシの領主となった。

本来であれば彼女が領主となる予定ではなかったが、無事にシュバリエにも感応。予定通り領主の任を果たすこととなった。

彼女には本来の領主の役目について説明は一切されていない。これは利用者の希望である。そういう意味ではどこか勘付いていた節のあるカタリナよりも適任であっただろう。

領主の就任祝いを済ませた彼女を眠らせ、利用者たちに届ける。処女は当然、最も多くアルピオンへ寄付をする富豪のものとなる(当記録において、その名前は伏せる)

剣や座学については優秀な彼女だったが、精神的にはまだ未熟さがあったようだ。この期に及んで自分の役割に理解ができて居ないようで、ひたすらに泣き叫んでいた。

最初の一日は領主にとっては最も過酷な一日の一つである。多くの利用者が何度も射精し、彼女もまた何度となく気を失った。

翌日、精神的には疲弊したところが見られたが肉体的には全く問題はなかった。シュバリエとの適合については良好な状態である。

当然のことではあるが、アルビオンの領主に実権は基本的に存在しない。
彼女らはシンボルであり、あくまで出資者達の玩具である。
シュバリエとの感応・適合については騎士としての能力などは全く関係はなく、
あくまでそういう風にアルビオンの民には伝えられているだけである。

品のない言葉を使えば、領主はつまり肉便器ということになる。
星晶獣シュバリエの力によって並外れた頑健さを手に入れた少女は、
様々な行為で出資者達を喜ばせることを求められる。

シュバリエの力を得るとともに、領主はアルビオンから出ることが出来なくなり、
また魔法的な処置により特定の人間に逆らうことも不可能となる。



調教をはじめとする行為の殆どは、領主に与えられた屋敷の中で行われる。
(そのための設備を整えられている)

しかし、出資者の多くは領主となる少女が環境に慣れ、感情に乏しくなることには否定的な意見を持っており、時折このように外へ連れ出すようにしている。

領主…ヴィーラはこのような行為には強く反対をするが、その反応は出資者を喜ばせる以外には全く意味が無い。

ただ、些細な事にも涙を流し、度々ヒステリックな(または幼児のような)反応をする彼女は出資者達にとっては魅力的な存在のようだ。

カタリナではなく彼女が領主となったことは、今となっては喜ばしいことと言えるだろう。



魔物との交配を伝えた時のヴィーラの反応は実に愛らしいものだったことをここに記す。

今までの領主の場合、このような行為をする段階においては精神的に極度に疲弊し、現状を受け入れることに腐心する者が殆である中、彼女はまるでこの世の終わりのように泣き叫び、指示を伝えた私に縋り、何度も頭を垂れたのである。

どうにかなるように善処をする、という嘘を伝えた時の彼女の表情は書き表すのが難しい。



アルピオンに放たれる魔物の一部は領主が孕んだものである。人間の子と違い、出産までの周期が短いものを選び交配をさせている。

勿論こういった行為に特別な意味はなく、出資者たちにとって異種姦や異形の出産が娯楽になっているからである。

出産を嫌がったヴィーラには、これが終わればカタリナを会えるように手配した…という嘘を伝えておいた。

頼るものが何もない生活において、彼女の中でカタリナという存在は日々肥大化しているという徴候が見られる。

そのおかげか平時の精神は安定しており、まだまだ領主としての務めを続けていくことが出来そうで幸いである。

彼女の領主としての務めはまだまだ始まったばかりだ。これからもヴィーラ・リ＝リエが領主として健やかに過ごすことを祈っている。



